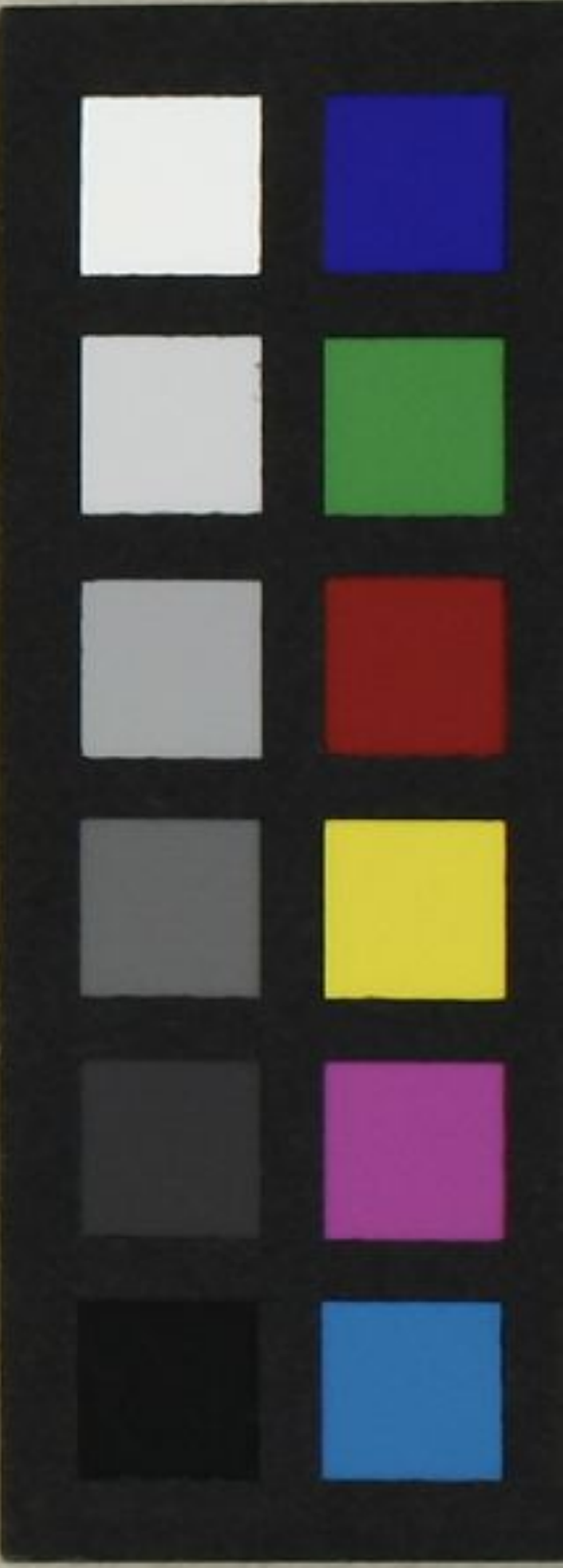


拝啓

整との上、京の由、恒以
助と折ま、念右、徳子
平生、毎、音、行、を、通
せ、さ、る、博、林、に、而、て、何、然、不
之、兼、年、の、の、恒、成、温、わ、
と、こ、し、と、あ、り、中、生、整、四
既、之、人、十、分、効、強、寸、と
か、る、迄、と、陸、軍、大、学、へ
学、の、を、所、ま、果、を、以、林
り、中、同、時、心、に、上、心



或る民の事の中にもあは
 たりしか切平一或切
 伊新りか
 法兵衛刺の道し度ふ就
 るは止り然り心者ふあ
 續権ららしむものと進
 ともあらんしそふ戸人藉
 海ふんしそふ子續せし
 院而之ふ山のものうれ
 成らものとか中か法兵衛
 刺の人心欲るんか
 と持せらふんか
 未成ありし法しふと棟
 りゆあの上やふらむ方
 然と存中し
 湯ふ井止家ふ動も
 一隊し祝しむゆはを人
 より聞先するそふふよ
 水心井止ふよりあふ来
 しまきけるのゆ話ふは祝
 美へふふふ

此心井上公より書あへ来
にまゐるゝの口活めは祝
族へお祈りすゝかふも
去て宣しきかち中し
何人もお家のあふ合はしめ
のふきをふまのせき然ら
ぶもちすす直志すか
中しすに考し一二口を
併しものせきと道平
中人の世に家のあふ状
能く考し一二口を
世に全くせきを一身
の員とせき故強人と
因却致す身は果
一條とあすものに時
を失ふたふもの
以断りしすまのこ
るらるゝの由
生時の家行ふ人
最功の事やとせん
たすは何物か
ま

存せしむるは人のあつても
各々地を論じりしかば
らにん子徳仁評ん
む為其の妻あふららこ
へ其自分のあ女の身の
振方山就き自分がと
任は己とさす水一とて
此仁苦のすること無
りしものにはらにん
理屈の中にもは
なき儀ふくらりかへ
共他人の財産まで
調ふこと未だ息あ
るよの仁解刻量至
る上せて平然し
のと同林と自し
あるに中を
るはつは弱極るに
以て拒絶するもの
一長あ没道し
存せしむるは人のあつても

一長あ没道し現入極と
存せられし縁未
きものり心考し是
礼りしとありし際
之果ふ捨るにたる然
と存せられし中
たるもるも存の事情
故を、ちりとす水に
目下先方もるなり
良縁もこらるる縁未
之徳ら平き与候
考せしものため何す
のよみらりしにや筆
のよめの法ありしに
然しるがら小生は
最前年井上家小
對おんは若んより
夫と懇心地致す懐じ
之親念侍り若く小生
と生井上家小生の

夫と懇心で致すは
之親念侍り此も生
と唯井上より為志
て四素何そよの縁部
たりき士人亦接する作
法のみ何す金まさ
はのたりか恒のまは
知らしむ置後お存
のらしむ

桑名東神社の二條、
お存のふもむを
まふらふ入む一
まかりは立た名の税
の影りし上供

舟上

八月二日

より

以影上供
...

八月二日

舟上
...

父上様



東京市淺草
馬船町十五飯田様
考塚塚浪助様

茨城縣結城郡
馬田村

八月二日
考塚塚浪助

長塚節手東

父源次郎宛



特別
文庫14
C48

